

一〇二二年三月五日

テノールに酔ふ春宵のコンサート

よう子

余寒なほ足湯の混みし道の駅

愛正

翅ぴたと閉ぢて初蝶線となる

なつき

ざく切りの刃先に香る根芹かな

なつき

小面の笑み妖しきり春の燭

むべ

早春の風和らげる日和かな

わかば

首筋に喝と雪解の零落つ

こすもす

静かなる絢爛梅の床二月

凡士

雛飾る笑顔に覗く二本の歯

はく子

病院の検査に一日日脚のぶ

なつき

ドラマ缶帽のはみ出す焚火かな

よう子

早春のさざ波駆くる山湖かな

よし子

梅寒し拍手まばらに大道芸

なつき

吊るし雛部屋埋め尽くす旅の宿

はく子

春霞湯屋の煙突消へし街

凡士

毎週句会秀句・みのる選・一〇二二年三月六日